

ブラジル市場における日系多国籍企業の戦略 —埋め込み理論によるアプローチ—

結城和臣（慶應義塾大学大学院）

本研究では、近年注目を集めるグローバルサウスの一角をなすブラジルに焦点を当て、埋め込み理論に基づいて日系多国籍企業の現地戦略を分析する。|日本企業にとっても意義の大きなブラジルという市場だが、従来はその外部環境の複雑性や地場産業の弱さなどが原因となり、新興国市場の中でも特に苦戦を強いられる市場となっていた。しかし近年は、そうした課題も徐々に克服されつつあり、特にイノベーションの担い手としても注目を集めるに至った。実際、ブラジルにおけるナショナル・イノベーション・システム（NIS）もまた成長を遂げており、海外子会社には積極的にこのシステムへ関与してイノベーションを創出することが求められている。

システムを構成する現地の諸アクターと海外子会社の関係は、従来も埋め込み理論に基づいて研究されている。しかし、システムティックレビューによって先行研究を整理した結果、①社会的文脈が重視されるはずの埋め込み理論において、その文脈の考慮が不十分である点、②サプライヤーやディストリビューターとの関係性ばかりが調査され、他のアクターとの相互関係が考察されていない点、③各アクターの特徴や役割を考慮せず、「アクターとの深い関係性＝業績への正の影響」のような単純な議論に終始している点の大きく 3 点が課題として挙げられることが分かった。そのため本研究では、ブラジルにおける NIS という文脈に基づき、各アクターに求められている役割とそれに対する日本企業のアプローチを分析対象とした。そして、イノベーションの創出に対する効果を分析する。|分析では、パイロットスタディのインタビュー調査で可視化されたブラジルの NIS と日系海外子会社の関係性から、特にイノベーションの創出が確認された企業を 3 社抽出した。そして追加のインタビュー調査を行い、ブラジルにおける海外子会社のイノベーションには、NIS 上で定評のある大学などの研究機関との関係性が最も重要視され、多くの研究で指摘されてきた地場企業との関係性は、直接的にイノベーションに繋がり得ない可能性を指摘する。さらに、ブラジルにおいては、従来議論のなされなかったスタートアップ企業もまた、海外子会社のイノベーションに重要な役割を果たすことも明らかにした。|以上の結果は、従来の研究で不足していた文脈に基づく議論の重要性をさらに強調し、企業が現地にどう埋め込まれるべきかという戦略上の示唆も提起する。